

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念を休憩室に貼ったり、会議で話し合いをし、共有を図っている。事業所理念に基づいた年間目標を全職員で考え実践に繋げるようにしている。 | 「ご利用者様一人ひとりに合わせた個々のケアで常に笑顔あふれるグループホーム」の事業所理念を今年度も引き続き掲げている。理念に基づいた年間目標を全職員で考え、目標達成出来ているかアンケートを取り、会議で個人が気づいた事を確認し合い実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 移動販売車を利用したり、コンコン祭り・春の庭百景めぐり・越後村上町家通り巡り・一輪挿し運動など地域の活動に参加している。 | 移動販売車が昨年の12月までは毎週来ていて利用しており、地域の方も買い物をしてくれたりと交流が図られている。また、地域の行事・活動内容を、市報「村上まちづくり通信」で確認し、一輪挿し運動など、地域の活動に参加するなど、これからもますます交流が盛んになる事が期待される。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議での地区の区長・民生委員・系列施設の管理者・ご利用者家族に参加して頂いている。村上市のオレンジプロジェクト(認知症になっても暮らしやすいまちへ)に参加もしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、市の担当者・地区の区長・民生委員・系列事業所の管理者・ご家族に参加して頂き、活動等を報告しご意見を頂いている。それを、職員に周知しサービス向上に取り組んでいる。 | 運営推進会議を2ヶ月に一回開催し、地区長・市の担当者・民生委員・系列事業所の管理者・地域包括支援センター・家族代表に参加してもらい、活動報告、事故報告など行い意見や質問をもらっている。また、会議録を送り、質問への対策・考え方を返答している。職員も回覧して共有しサービス向上に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に参加して頂き情報を提供しご意見を頂いている。 | 村上市担当者からも運営推進会議に参加してもらい、他の事業所のコロナ対策や事故報告・ヒヤリハット対策などの意見をもらっている。災害や避難訓練の情報も共有し、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的に身体拘束防止の為の会議を開催している。拘束にあたる行為、拘束に当たるとされるグレーゾーンの行為を再確認し行わないようにしている。ユニット間の移動も自由。外に出ようとしているご利用者には制止しないことを徹底している。 | 身体拘束適正化委員会がありマニュアル・議事録も整備されていて、3ヶ月毎に会議を開催している。会議では言葉づかひや、グレーゾーンの行為を再確認し、職員の不適切な言動・ケアに対してはその場で注意したり会議で取り上げている。入居者はユニット間の移動も自由に出来、外に出ようとする時は見守り支援している。 | |
| 7 | (5-2) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的に虐待防止のための会議を開催。自分がしてほしくない介護について職員一人ひとりに書いてもらい、個々のケアの再確認をしている。 | 虐待防止についてもマニュアルが整備され、委員会は3ヶ月毎に会議を開催している。また、村上市の虐待防止の講習会に代表が参加し、事業所内で伝達講習を行うなど、適正なケアに取り組んでいる。今後、職員のストレスチェックを年度内に計画している。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 今年度は項目に関して学ぶ機会はなかった。現状、必要なご利用者もない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書と重要事項説明書を用いて説明し契約している。重要事項説明書に変更があった場合は、随時ご家族に変更事項についてはお知らせし、必要時は確認書で同意を得ている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や受診時の送迎時・電話にてご家族からの要望や意見を聞くことがあり、それについては日々の申し送り等で職員間で把握し、運営に反映させている。 | 家族から「新聞」を作って欲しいとの要望から、「笑顔新聞」を毎月発行している。事業所内の様子や入居者の様子・表情がよくわかると好評な意見をもらっている。面会時や受診時に家族からの要望や意見を聞き、日々のケアに取り入れ、個別支援に努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議やカンファレンスの際に意見・提案を聞き、反映させている。 | 毎月会議があり、事前に職員から居担に関する事や業務に関する事など要望や疑問点を出してもらっている。外国人実習生も受け入れしているので、日誌の記入の仕方やルビをふって読みやすくしたり、入浴時の処置の仕方、経過表などを改良し、「○」をつける事で簡略化するなど、職員の意見を聞きながら反映させるように努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者も現場兼務任となっており現場業務に当たっている。それにより個々の状況についてなど把握している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 感染症やリハビリに関する研修会に参加している。新型コロナウイルス感染症の影響でZOOM研修が増え、参加のハードルが下がり、多数の職員が参加できている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから、グループホーム管理者会議は定期的には開催され、情報交換を行っているが、職員間の交流は今年度も再開されていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にできる限りご本人とも面談し、現状の確認や困りごとなどご本人から聞き取りを行っている。不安感がある時は、好きなことなどに話を振るなど、入居後の生活が想像しやすいよう対応した。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前にはご家族とできる限り面談し、ご本人からの聞き取りと合わせながらご家族の困りごと等話をした。その困りごとに対してどのような対応が可能かも伝え入居後の生活が想像しやすいよう対応した。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | グループホームで対応可能な範囲を伝えたくて、グループホームに限らず様々なサービスがあることを伝えている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者の状況に合わせてながら、自分のできることはして頂き、自分らしく生活できるように見守りを重視している。 | | |
| 19 | (7-2) | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 受診はご家族に協力を仰ぎ共に生活を支える一員として対応している。新型コロナ感染症のために面会制限がかかる中でも、利用時の様子が分かりやすいように写真や苑だよりの送付を継続している。新型コロナ感染症が5類に移行してからは、外泊・外出・外泊など全面的に解除している。 | かかりつけ医に受診する時も家族に協力してもらい利用者を共に支えている。家族の希望により、入居後、間もない時は毎日会いに来てもらうなど、面会制限のない関係を継続して家族の一員として絆を大切にしよう対応している。外出・外泊・外食支援など、可能な限り対応して共に本人を支えていく関係を継続している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族対応が困難な場合を除き、入居前のかかりつけ医へを受診や馴染みの床屋に行くなど対応を継続してもらっている。友人の面会もある。 | 以前からの馴染みの喫茶店に一人で出掛ける利用者の後からついて行ったり、一緒に歩いて出掛けたりなど対応できるよう支援を継続している。入居前から通っていた「六斎市」に行かれ、知り合いの人と挨拶したり、本人が大切に思っている人や地域の方との関係を途切れないように支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者同士の関係性を把握しフロア席を配置。その中で協力したり、話をしたりできるように見守りをし、職員が間に入りながら、個人個人を尊重した対応をしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じ情報提供を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 年1回は居担にセンター方式を利用してご利用者から聞き取りを実施。ご利用者の意向をくみ取る1つの手法としている。それをもとにケアプランを作成している。 | 居室担当者がセンター方式を利用して、利用者から聞き取りを行っている。年一回は見直しを行い変更内容があれば追記する等、本人の希望・意向の把握に努めている。家族記入の入居時の申込書からも思いや意向を把握するなど、計画作成担当者はケアプラン作成に活かしている。 | |
| 24 | (9-2) | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご利用者がこれまで生きてきた年代・時代背景等を考慮し、また、ご家族や入居前の事業所より情報提供して頂き、そのご利用者に合った対応をするように努めている。 | 入居前の家族記入の申込書から入居理由や生活歴、自宅での日常生活の様子などを把握するよう努めている。また以前利用していた事業所からも情報を確認し、センター方式でアセスメントシートを活用し、計画作成担当者が確認しており変更内容があれば赤字で追加記入している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケアプランに沿った経過表を作成し、1日ごとに評価する方式をとっている。それによりご利用者の現状が把握しやすいようにしている。また、「ご利用者状況シート」を作成し、個々のADLや対応方法をまとめている。シートは月1で更新し、最新の情報を職員同士で把握できるようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 定例会議で、ご利用者の現状や問題点を挙げ対応策を検討し、必要あれば対応の変更を適宜行っている。ケアプランは著変がなければ基本1年単位で見直し、変更をしている。軽微な変更は経過表に追記するなどして、その状態が長期続けばケアプランから変更するようにしている。 | 介護計画は著変がなければ基本1年に1度見直し変更がされている。決められた様式を用いてモニタリングが行われている。センター方式や課題検討用紙、入浴経過表、また、経過表にて介護計画の項目ごと毎日評価されている。利用者、家族、居室の担当者、計画作成者、携わる職員等、チームでの情報が集約され、定例会議にて利用者の現状、課題や対応策など検討され、現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアプランに沿った経過表を作成し、1日ごとに評価する方式をとっている。気づいたことは逐一記録に残すようにしている。記録に残すことはもちろん重要なことや対応変更が必要なことについては日誌や口頭で申し送り、職員間に周知するようにしている。ADL状況などをまとめた利用者状況シートを作成し、職員同士がすぐに現状把握できるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人の意思で危険のない範囲でできることはして頂いている。新型コロナウイルス感染症の影響で外出支援が減ったため、定期的に移動販売者に来苑してもらっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 新型コロナウイルス感染症の影響で外出支援は減っているが、5類に移行後は地域の行事に参加できるようにしている。定期的に移動販売車が来て好きなものが購入できるようにしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ほぼ入居前のかかりつけ医に受診を続けている。受診の際は情報提供書にて苑での状況報告や薬の調整等医師に相談するようにしている。また、受診と共に薬に関しても一元管理し、薬剤師に薬についていつでも相談できる体制を整えている。 | 本人、家族の希望を尊重し多くの方は、入所前のかかりつけ医に継続受診されている。受診の際は、事業所での状態が分かる情報提供書やバイタル表を持参し報告相談をしている。皮膚科など必要時には人体図の印を活用し情報提供している。歯医者についても疼痛時、義歯の不具合など連携医に受診支援をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師とは情報共有ノートを作成し、利用者の状況把握がスムーズにいくようにしている。医療に対する疑問点や問題点等は適宜看護師に相談し、指示やアドバイスを受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | サマリーの作成や電話連絡するなど、家族・病院との情報共有を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りについて行わないことはご家族には伝えている。早期に状態が落ちたご利用者に対して、ご家族との話し合いをし、病院と情報共有しながら、今後について検討している。 | 入所時に看取りについて事業所としての取り組みを説明している。利用者の体調の変化に伴い重度化した場合は、その都度、情報を共有し主治医と連携を図り家族と話し合っている。本人、家族の思いをくみ取りながら、可能な限りできることを支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|--------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | (12-2) | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変・事故発生時のマニュアル作成。計画作成担当者が応急手当普及員の資格を取得し、消防署よりダミー人形とトレーニング用AEDをレンタルし、全職員対象に胸骨圧迫方法とAED使用について研修を行っている。 | 急変・事故発生時のマニュアル・フローチャートは作成されている。緊急時に持ち出す個別の救急情報シートも作成されている。応急手当普及員資格習得者より、全職員に心肺蘇生法・AEDの使用方法的研修が行われ実践力を身に付けている。 | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練や消火活動等ご利用者と共に行っている。系列施設との避難訓練や地域の避難訓練にも参加している。また、系列施設の管理者に協力してもらい、出勤職員に周知せずの避難訓練も行っている。 | 村上市全域で行われる防災訓練では隣接する系列施設駐車場に利用者と一緒に一次避難を実施している。また、津波を想定した避難訓練、夜間想定した避難訓練や、職員へ周知せず突然の避難訓練を行うなど、日頃から利用者が安全に避難できるよう訓練が行われている。BCP(事業継続計画)は、現在、会社で作成途中である。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 拘束や虐待のグレーゾーンに当たる部分を職員間で周知し、一人一人を尊重した対応をしている。プライバシー保護に関しても不適切な対応があった場合はすぐに対応を改めるよう指導している。 | 「プライバシー保護の取り扱い」マニュアルは整備されている。研修委員会にて、3ヶ月ごとに研修は行われている。「不適切ケア、自分がしてほしい介護」について、全職員にアンケートを実施しており、気づき、意識づけに繋げている。管理者は、日々の支援の中で不適切な言葉かけや対応に気づいたその時に声掛け指導を行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 買い物希望や外出希望等、対応できる時は対応している。1人で外に出てもすぐに引きとめることはせず、様子を見守っている。職員が全て決定するのではなく、ご利用者の意見を聞きながら自分で選んで決められるように対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員側の都合ではなく、無理強いをせず、一人一人のペースに合わせている。時間をおいたり、職員を変えるなどして対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 馴染みの理・美容室でカットやパーマをかけに行っている。ご家族が対応できない場合でも、パーマや髭剃りの要望があれば、対応できる訪問美容師に依頼している。また、自身で洋服を選んだり、整髪できるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 準備・食事・下膳・洗い物までできることは積極的に促し行っている。 | 普段の食事メニューは併設する施設で調理され提供されるため決められているが、新年会やレクリエーション等、希望があれば「生寿司」等に変更し提供されている。併設の施設より運ばれるおかずは、職員が準備した小鉢に利用者が慣れた手つきで盛り付け、ポットのお茶をカップに注ぐなど、利用者一人一人ができる力を活かし準備が行われている。また食後は、食器を重ね下膳するなど利用者と職員と一緒に楽しみながら行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 好き嫌いや禁食等を職員間で共有し、対応している。ご利用者が好きな時に水分摂取ができるよう、テーブルにお茶をセットし飲用してもらっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床後、夕食後又は就寝前の口腔ケアは定着。朝・昼食後は自身で行うご利用者の他は声をかけて促している。痛みのある時は口腔内を確認し、歯科受診等を検討している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄状況を観察し、個人に適したリハパンやパッドが使用できるようにしている。状況によっては使用品を変更している。 | 個別の排泄チェック表を活用し、排泄状況の把握に努めている。車いすを自走トイレで排泄、自分でパット交換できる方や失禁がなくリハビリパンツから布パンツの使用となった方など、一人一人の力や排泄パターンを活かし継続してトイレでの排泄ができるよう見守り、必要時支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日排便状況の申し送りをしている。水分の調整・排便コントロールはご本人に合った方法を適宜検討・試行し、ベストになる状態を調整している。乳製品の提供や生活体操を取り入れている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴間隔を考慮し、受診や外出に合わせて入浴日の日程を決めている。入る順番の希望や拒否がある時は対応している。6月の菖蒲湯・12月のゆず湯もしている。 | 受診や外出等に合わせて個々に沿った入浴支援が行われている。ボードを活用しており個々の入浴日を利用者も確認することができる。入浴順の希望や入浴拒否のある方には、日を改めるなど柔軟に対応している。また、一般浴と座浴があり利用者の状態に合わせた入浴も可能となっている。事業所でのしょうぶ湯やゆず湯の他、連携施設での温泉、希望者を募っての瀬波温泉での足湯など、近隣の環境を活かした支援も状況を見ながら行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は自身のペースで静養している。就寝も消灯時間を決めずに好きなタイミングで寝ている。室温管理やリネン交換等、快適な環境で休めるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ファイルにお薬カードを綴りいつでも確認できるようにしている。様子観察を行い、状態に変化があるようであれば医師に相談し調整を依頼している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 自分のことは自分で行う環境を整えている。家事作業がすきなご利用者には家事作業、手先が器用なご利用者には裁縫をお願いするなど、個人に適した作業を提供している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望があれば一緒に出掛けている。1人で外に出ても制止はせず、どこに向かうかを観察している。 | 安心して、戸外に出られるよう家族の理解協力の下、支援に努めている。職員も一緒に出掛け、近隣のドラッグストアに化粧品を買いに出かけたり、入居前に行っていた「六斎市」への散歩、近隣を散歩し顔馴染みの住民から声をかけてもらったり、喫茶店に立ち寄って過ごされるなど、一人一人のその日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人のお金は苑管理としているが、買い物の際はご本人に財布を渡して支払いをもらうこともある。ご家族了承のもと、好きな物を購入できるようにと本人管理し、買い物の際はきちんと支払いも行えている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を使用しているご利用者はもちろん、ご自宅だけでなく、遠方にお子さんやお孫さん等にも電話をかけたいと希望があれば対応している。遠方のご家族のお手紙を笑顔で読まれている方もいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有スペースでは手作りの作品や季節を感じられるような飾りつけをしている。温度や照明・音等に配慮し居心地よく過ごせるように心掛けている。 | 2つのユニットの間にある玄関フロアは、「村上市オレンジプロジェクト」で職員と利用者で作成されたオレンジの団扇や制作が飾られている。また、木の椅子等が置かれ共有空間としても使われている。市主催の「一輪挿し運動」は玄関や居室入口に飾られている。リビングは明るく天井は高くゆっくりとシーリングファンが回り温度や湿度が保たれ、椅子やテーブルは利用者に合わせて高さが調整できるなど居心地よく過ごせるよう工夫されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースでも一人一人自由に過ごしている。気の合うご利用者同士で席を移動し話をしたり、居室に行き話をしている方もいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族と相談し、使い慣れた家具等をご持参いただき、ご本人が居心地良く過ごせるようにしている。 | 家族と相談しながら家具やテレビ、携帯電話など使い慣れたものを持参されている。また、事業所全体がクッションフロアとなっており、居室の床は布張りのカーペットが施行され、家具調こたつが持ち込めるなど利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 視覚的に把握しやすいようお風呂場は湯のれんをかけている。また、居室名もご利用者が馴染みがあり分かりやすいように入居前に住んでいた地名としている。 | | |